

2010.11.2 「小沢氏、国会で堂々と説明せよ」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

今日 11 月 2 日は衆参両議院でいよいよ補正予算が財政演説という形で示されます。これから補正予算の審議をするわけですが、補正予算の提出がこれほどまでになぜ遅れるのでしょうか。それから補正予算を審議するまでに国会の場で小沢氏に説明責任を果たして貰うべきだと、与野党間で協議をして合意をしているにもかかわらず、一向に小沢氏は国会に出きません。更に民主党の岡田幹事長は小沢氏自身に面会の申し出をしてもなかなか会えないと発言しています。これはで政党として体をなしていないと言わざるを得ません。

結局、民主党の議員は誰も小沢氏に対して、国会で説明すべきだと強く発言できなくなっているのです。もし、してしまうと党が分裂をして政権が持たないと思っているのでしょう。

しかし、これは本末転倒の話です。もともと、私は小沢氏の問題を一年半前からずっと一人で追及して参りました。その当時から、この問題は必ず大きな問題に発展するから、私の質問に対して野次を飛ばしている民主党の議員の方に「野次を飛ばしている場合ではありませんよ。自分達がしっかり説明責任を果たしていないと、とんでもないことになりますよ」と発言し続けてきたのですが、それが放置され、今日に至っているわけです。この問題は民主党の当事者能力のなさを象徴しています。

また、民主党の当事者能力のなさは、普天間基地の問題や尖閣諸島の問題などにも象徴されているのではないのでしょうか。昨今、安全保障に関して様々な問題が国内外で起きており、今までの政策の延長線上では駄目だということが、はっきり分かって来ています。であるにもかかわらず、この問題について、防衛力を増強して自分達の国を自分達で守るという旗を掲げることもなく、そのようなことを発信することもなく、考えることもありません。それどころか、目をつぶって時間が経てば忘れてくれるだろうと考え、この問題を無かったことにしようとしています。尖閣諸島のビデオの問題に対しても人の噂も七五日、公開しなければその内忘れてくれるだろう、中国との間に波風を立てなければいいという感覚でやっていると思えません。これはとんでもない話です。そうではなく、目の前で起きている問題によって、日本の安全保障は非常に立ち後れているということを考えなくてはなりません。

このような遅れた安全保障の責任の半分は、我々自民党にもあると思っていきます。民主党は自民党政権時代の政策をそのまま適用して使っていると答弁しています。その答弁のように、自民党時代からも中国に対する備えが足りなかったのは事実です。しかし、自民党時代では、中国が日本を経済力で追い抜き、軍事力でも遥かに追い抜き、その上で実力を行使してくるという事態は、まだ出ていませんでした。もし今、自民党政権なら当然のことながら自主防衛の旗を掲げて防衛費の増強、自衛隊の配備ということをしなければならないと

考えています。我々自民党はこういう事を提案していきたいと思っています。

いずれに致しましても今日の民主党政権、小沢氏の問題、尖閣諸島の問題、普天間基地の問題の全てにおいて、当事者能力が無いということを証明しています。これからも国会の中でこの事をしっかりと追及していきたいと思います。

それから最後になりましたがセミナーの事です。毎回お願いしておりますが、いよいよ今月の11月18日、憲政記念会館で18時から19時半まで西部邁先生をゲストにお呼びして、私初めての東京政経セミナーを行います。政治資金の寄付を目的にしておりますので、少々値段が高いのと、飲食物は一切出ませんが、ぜひ、ご協力いただきまして、私の政治活動を御支援いただきたいと思います。今後ともこういう国の根幹にかかわる重要な問題は国会の中で攻めていきたいと思っています。御支援をよろしく願いいたします。ありがとうございました。